

JRTT

共有船ニュースレター

< VOL 11 >



鉄道・運輸機構

発行: 令和6年3月29日

共有船部門

《目次》

- ◇共有貨物船 乗船記 ～「神永丸」編～
- ◇JRTT令和5年度内航船支援セミナーの開催
- ◇祝 共有旅客船「はやぶさⅢ」命名・引渡&就航

共有貨物船 乗船記 ～「神永丸」編～

苫小牧～釧路～仙台～東京～大阪などを1週間かけて結ぶ定期航路に就航する栗林マリタイム㈱との共有貨物船「神永丸」に乗船しました！

本船はロールオン・ロールオフ船、略して「RORO船」と呼ばれる船でトレーラーや乗用車はランプウェイから自走で乗り入れ、自走で降りることが可能な構造を有します。巻取紙(※1)やシャーシ(※2)、乗用車などを運搬しており、物流の2024年問題(※3)への対応が迫られる中、海上輸送へのモーダルシフト(※4)に大きく貢献し、皆さんの生活を支えています！

(記者 A. Y)



荷役作業

シャーシはヘッドを取り付け、搬出入します



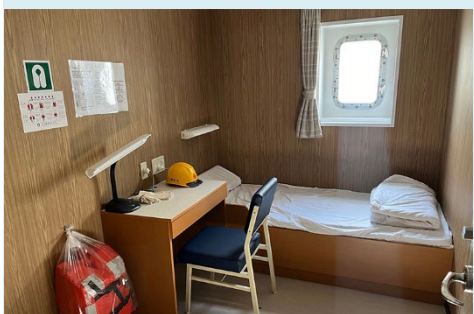
シャーシ層

シャーシには農水産物等が積載されています



乗用車層

固縛装置により、荷崩れを防止しています



ドライバールーム(全12室)

取材班は、こちらに宿泊させていただきました



船員室(全15室)

バス・トイレも完備されています



モーダルシフトに大きく貢献している「神永丸」



船首左舷ランプウェイ(※5)



船員食堂

司厨長さんにより、食事が提供されます

- (※1) 裁断されていないロール状の紙
- (※2) 農水産物や飲料などを格納したコンテナを積載する台車
- (※3) トラック事業における2024年4月からの労働時間規制により生ずる問題
- (※4) トラック等で行われている貨物輸送を環境負荷の少ない船舶等の利用に転換することです。令和5年10月に政府により決定された、物流革新緊急パッケージでは、内航海運の輸送量・輸送分担率を今後10年程度で倍増させることが示されています。
- (※5) トレーラーや乗用車の乗降に使用する走路

乗船の様子は、鉄道・運輸機構だより2024冬季号でもご紹介しています



JRTT 令和5年度 内航船支援セミナーの開催

令和5年11月28日(広島)及び令和5年12月7日(東京)にて、「JRTT 令和5年度内航船支援セミナー」を開催いたしました。

会場及びオンラインのハイブリッド形式で開催された本セミナーには、両会場累計約200名(約100事業者)、オンライン約400名(約200事業者)の方々にご参加いただき、会場は満席となりました。参加者からは「省エネや船員減少への対策に関する取り組みなど、大変参考になった。」「今後も新基準の船舶建造の情報発信をお願いしたい。」等といった声をいただきました。

(記者 M. N)

【講演内容】

1. 内航カーボンニュートラルに向けた今後の施策 13:45~14:05 (20分)	国土交通省 海事局 海洋・環境政策課 技術企画室 室長 松本 友宏	
2. 連携型省エネ船コンセプトのご紹介 (次世代内航船 SIM-SHIP) 14:05~14:30 (25分)	一般社団法人 内航ミライ研究会 事務局長 上田 和広 SIM-SHIP1事業者 鍋島 喜一	 
3. 連携型省エネ船コンセプトのご紹介 (普及型ハイブリッドEV貨物船) 14:30~14:55 (25分)	株式会社 e5ラボ 技術担当 土屋 岳彦 株式会社 e5ラボ 技術担当 神内 悠里	 
4. 航海自動化に向けた取り組み ～離着岸計画を含むPlannerの開発～ 15:10~15:35 (25分)	無人運航船プロジェクト「MEGURI2040」 日本海洋科学 自動運航船チーム 岡田 尚樹	
5. 海事産業向けプラットフォーム Aisea ～内航海運を取り巻くDXの課題と解決策～ 15:35~15:55 (20分)	アイディア株式会社 事業戦略室 企画立案マネージャー 尾崎 護	
6. スターリンク海上利用向けサービスの現状 15:55~16:15 (20分)	KDDI株式会社 ビジネスデザイン本部 エネルギー・運輸営業部 山下 和	



藤田理事長による開会挨拶 (東京会場)



有働理事による開会挨拶 (広島会場)



e5ラボ神内氏



KDDI山下氏



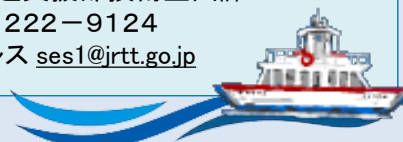
広島会場全体



「内航船支援セミナー」等に関するご相談は下記へお願いします

- 建造に関するご相談
共有船舶建造支援部建造促進課
TEL: 045-222-9138
メールアドレス kensoku@jrtt.go.jp
- 技術調査に関するご相談
共有船舶建造支援部技術企画課
TEL: 045-222-9124
メールアドレス ses1@jrtt.go.jp

講演資料ダウンロードはこちら





共有旅客船「はやぶさⅢ」

命名・引渡 & 就航

令和6年1月10日に青函フェリー(株)とJRTとの共有旅客船(2,997総トン型、旅客船兼自動車航送船)が竣工しました。

竣工にあたり建造造船所である函館どつく(株)函館工場の岸壁にて、命名・引渡式が執り行われ、青函フェリー熊坂代表取締役社長によって「はやぶさⅢ(スリー)」と命名されました。



就航に向けて函館どつくの岸壁から離岸します



一般的に建造中の船は造船所の番号で呼ばれており、本船の命名前は「函館どつく第916番船」と呼ばれていました。命名とともに函館どつくから青函フェリーへ引き渡され、本船の建造工事に携わられた方々に見送られました。

本船「はやぶさⅢ」は運航中の共有船「はやぶさ」及び「はやぶさⅡ」(ニュースレターVol. 8で紹介)の同型船として建造されました。令和6年1月18日の最終運航をもって引退した2000年就航の“ミレニアム・ファルコン”「3号はやぶさ」からバトンを受け、令和6年1月20日より函館～青森航路に就航しています。

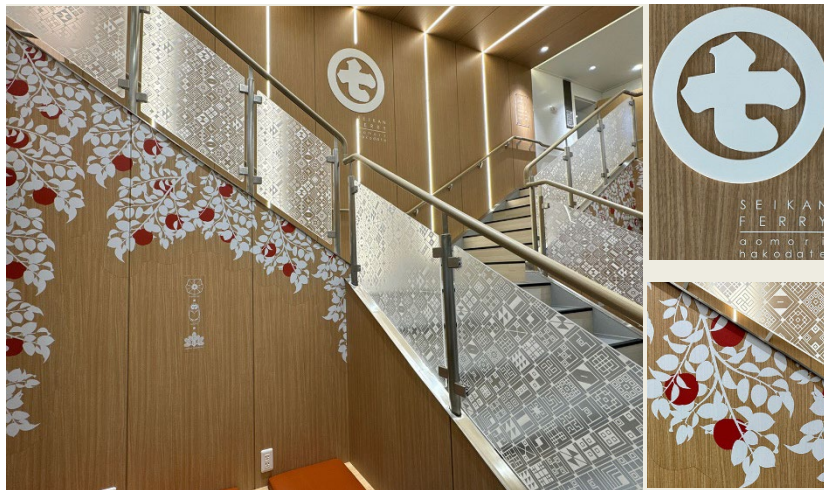
青森港に到着した「はやぶさⅢ」就航第1便



青森港では船尾側のランプドアを港に着けます



青函フェリーでは共有船「はやぶさ」シリーズ3隻と「あさかぜ21」の計4隻体制で、1日16便を運航しています。「はやぶさⅢ」は船首から船尾までスタイリッシュな船型で精悍さと美しさをもち合わせています。就航後は、北海道と本州とを結ぶ重要な物流ネットワークを担いながら、乗客に船旅の楽しさを提供することが期待されています。



「はやぶさⅡ」の船内は函館がテーマで「はやぶさⅢ」は青森をテーマにリンゴの木、さしこのデザインを取り入れています。両船を乗り比べると船内デザインの違いを楽しめます。



共有建造制度をご利用いただいた青函フェリー及び函館どつくの皆様へ感謝申し上げます。「はやぶさⅡ」「はやぶさⅢ」どちらも函館生まれ函館育ちの船として多くの方々の期待に応え続けてほしいと願っています。本船の航海のご安全をお祈りしております。

JRTT公式SNS

○ YouTubeチャンネル

整備新幹線、都市鉄道、船舶等の貴重な映像も公開

https://www.youtube.com/c/jrtt_official



○ X (旧Twitter)

JRTTの様々な情報をリアルタイムで発信

https://x.com/JRTT_PR



編集担当者のひとりごと

JRTTでは、人と人、地域と地域をつなぐ交通ネットワークづくりに取り組んでおり、その一環として、今号でご紹介した「神永丸」や「はやぶさⅢ」といった貨物船、旅客船を海運事業者と共同で建造しております。これからもJRTTは、豊かな暮らしのために交通インフラをつくり、ささえ、まもり続けるべく頑張りたいと思います。

春の足音が聞こえてくる季節となりましたが、まだまだ寒い日が続きます。皆様も体調を崩さないようにお過ごし下さい。(記者 N. H)

■ 本ニュースレターに関するお問合せ先

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構

JRTT共有船ニュースレター事務局

TEL : 045-222-9146

